高知大学共通教育広報誌［パイプライン］

PipeLine

63
2024.3

特集

教養科目

教養科目授業の感想、意義、受講にあたってのアドバイス等

No.63 Contents

特集「教養科目」	P1~9
自己点検・自己評価部会 授業でどのような能力を身につけますか？	P10
共通教育実施委員会からのお知らせ ストーリーとしての履修	P12

特集 教養科目

「教養科目」授業の感想、意義、
受講にあたってのアドバイス等

人文社会科学部

藤田　依里

教養科目の魅力

教養科目は新たな知識や視点を広げ、多岐にわたる学問分野に触れる絶好の機会です。学部や学科の垣根を超えた履修によって自分の興味関心を深めたり、新たな学問分野への興味関心につなげたりすることができます。これは一見異なる学問分野でも、実は関連し合っているからです。例えば、心理学は文学、考古学、哲学、宗教と結びついており、これ以外にもさまざまな分野と関係があります。具体的に心理学と文学では、文学作品中に描かれる「心」について理解するために心理学は欠かすことができない学問分野です。また、哲学や宗教も人間存在を「心」から考える点で共通しています。このように、各学問分野は繋がり合っており、教養科目を通じて異なる分野に触れることでみなさんの興味関心をより明確にするだけでなく、培われた多角的な視点は専門科目でもきっと役に立つことでしょう。ぜひ自分の興味関心のある分野に留まらず、さまざまな分野にチャレンジしてみてください。

人文社会科学部

加藤　りら

教養科目について

大学では自分が所属する学部で学ぶ専門科目に加えて、専門領域以外の分野を学ぶことができる教養科目があります。教養科目では学部学科を問わず、自分の興味のある分野を自由かつ幅広く学ぶことができます。

私の印象に残っている授業は自然分野の一つである「データ活用のためのプログラミング入門」です。元々プログラミングには興味があり、人文社会科学部に所属する私にとって実践的な体験ができる良い機会になると考え履修しました。プログラミングは未経験でしたが、最終的にはプログラミングを利用してグラフを作成し、それを基に自分の考えを論理的に主張する力を養成できたと思います。またプログラミングは文系とあまり関係性のないイメージがありましたが、ビジネスや行政等のあらゆる分野において文理を問わず必要とされるスキルであると知り、今後社会人として生きていくうえで身につけておくべき知見を得られました。

このように教養科目は自身の視野や知見を広げるきっかけにもなります。多種多様な教養科目があるため講義のシラバスをしっかりと確認し、自分の興味のある授業を見つけて下さい。楽しい学びに出会えることを願っています。

教育学部

安田　豊崇

「教養科目」について

「教養科目」の中で私の印象に残っている科目は「法を学ぶ」と「ドイツ語」です。

「法を学ぶ」では、遺産相続の問題や夫婦別姓問題など、具体的な内容を取り上げながら、専門的な知識を身に付けていくことができました。法律と聞くと少し難しいイメージを持ちますが、講義では法律に関する詳しい知識や内容を学習した上で、発展的な問題に取り組んでいくため、着実に学びを広げていくことができます。

「ドイツ語」は、ドイツ語の基本的な挨拶や会話、数の数え方や物の名前などを学ぶことができます。私を受けもって下さった先生は日本の方であったため、私たち学生の様子を見て、学習のスピードを調節しながら講義を行ってくださり、私は安心して講義に取り組むことができました。講義の中ではグループワークやペアでの活動も踏まえながら、学習していくため、他学部や他学年の学生と交流できることも魅力の一つです。

教養科目では、基礎的な知識を身に付ける講義から専門的な知識を得る講義まで、幅広く選択することができます。自分で講義選択することができるのは、大学生の醍醐味とも言えるので、様々な講義を経験してほしいと思います。

教育学部

濵砂　鳳樹

「憲法を学ぶ」の授業を受けて

「憲法を学ぶ」という授業はその名のとおり憲法について学ぶ授業です。みなさんは生活していく中で憲法に基づいて行動を行っているということをあまり感じたことはないと思います。しかし意外と私たちは憲法に基づいて行動しています。たとえばネット上で自分の意見をコメントとして投稿したり発信したりすることは日本国憲法21条で『集会、結社及び言論、出版その他一切の表現の自由は、これを保証する』ということが書かれているので可能なわけであり禁止されていないわけです。逆にこの条文がないと政府やその他のものが禁止することができ、コメントを投稿・発信できない状態が起こり得るということを意味しています。このように「憲法を学ぶ」という授業を通して、我々が生活していく中で身近な権利や義務を学ぶことができます。みなさんも難しく考えて授業を受けるのではなく、肩の力を抜いて受講してほしいと思います。

理工学部

石坂　庸吉

教養科目について

私が受講した教養科目の中で、特に印象に残っている科目は「非営利法人経営論入門」です。履修登録をした時は、初年次科目・必修科目を入れた後に空いたコマの中から地域関連科目を探して登録したといった経緯で、特別興味を持った訳ではありませんでした。受講してみると、非営利法人が企業・行政と同様に社会にとって重要な役割を担っていることを知り、その在り方について考える良い機会になりました。「利益を目的としない」という前提でサービスを考えることで、社会に与えるメリットについて多角的な視点を持つことが出来たと感じています。

教養科目は幅広い分野の中から選択することができるので、まずはシラバスをよく読んで少しでも興味に合った内容の科目を選ぶことをおすすめします。最初はあまり興味を持っていなかったとしても、受けてみたら関心のある内容であったこともあるので、何かを得ようとする心構えがどの授業に対しても必要だと思いました。

理工学専攻

根上　友真

教養科目について

私は現在大学院１年です。大学生時代多くの教養科目を履修しました。教養科目では興味のあることだけでなく、それまで知らなかった多くの学問に触れることができ、私の視野を広げてくれました。特に高知県外から来た私にとっては地域関連科目が非常に興味深かったことを覚えています。高知大学ならではのよさこい祭り、お酒、カツオ漁業、高知の中小企業などに特化した授業があり高知を知るきっかけになりますので、ぜひ受講していただきたいと思います。

また、私は趣味で楽器をしているのですが音楽の歴史に関する授業があり、担当の先生と意見交換を通じて知見を深めることができ非常に印象に残っています。他にも様々なスポーツや絵画、心理学など皆さんの興味のあることの多くが教養科目に盛り込まれていますので、シラバスにて授業内容をしっかりと確認し、楽しく受講していただきたいと思います。

医学部

鈴木　唯日

教養科目について

教養科目では、様々な分野から自分の興味がある分野を選んで受講することができます。入学してすぐに選択する科目を決めなければいけないので、何を選べばよいかわからず戸惑いましたが、先輩からおすすめされた科目を参考にしながら履修を行いました。

実際私自身、教養科目として自分で選択しなければ知ることができなかった内容を学ぶことができたり、選択したことで自分の理解をより深めることができ、実りのある時間を過ごすことができました。また、講義中、グループディスカッションをする時には、自分から積極的に発言したり、色々な人と話し合いをすることで、他の人の価値観を学ぶこともできました。医学部では２年生からは本格的に専門の科目が始まるので、１年生の間に自分が興味のある分野の科目だけでなく、興味のない分野を選択することで自分の視野を広げ、物事に対する本質を見抜く力を養うことが大切であると感じました。そうすることで、２年生からの今後の大学生活がより充実した時間が過ごせると思います。

医学部

山岡　由蘭

「教養科目を学ぶということ」

教養科目は様々な分野があるため、自分が所属している学部では学ぶことの出来ない幅広い領域を学ぶことができるようになっています。また、今まで興味のなかったことや、しっかりと知る機会がなかった分野について学ぶことができる良い機会でもあります。これは、専門科目を学ぶ上で必要な広い視野や知見を養うことに繋がると考えます。

実際に、私は教養科目の「公共政策を学ぶ」を履修したことで、授業を通して社会を見つめ、自身が生活している世の中を考え直すことが出来たと感じています。そして、公共政策を学ぶ上で自分の専門分野である医療とどのように関わっているのかをさらに知りたいという思いも湧きました。

このように、教養科目を学ぶということは一見、専門科目には関係がなさそうではありますが、結果として、そこでの学びが自身の専門科目に対する意欲に繋がると考えます。教養科目で学んだ様々な視野や知見を無駄にすることなく、これからの看護の勉強に活用していきたいと思います。

農林海洋科学部

三藤　大輝

教養科目の意義

教養科目のとり方は同じ学科やコースであったとしても、人それぞれ違います。私は教員免許の取得を目指していたため、「憲法について」や「スポーツについて」などいくつか必須で取らなければならない教養科目がありました。また、農林海洋科学部では２年生からは物部キャンパスで専門科目を受講することから、朝倉キャンパスで開講される教養科目は１年生で受講しました。

私は、元々天文学や気象に興味があったので宇宙や天気などを内容に含んでいるものを多く選びました。例えば「地球と宇宙」、「気象学入門」、「地震の災害」などです。「地震の災害」では、高知県に住む以上無視できない南海トラフ地震などの自然災害について学びました。この科目は、自身の災害に対する認識や考えをアップデートするうえで非常に有意義なものでした。

教養科目の意義は、博識で豊かな人間へと成長する事だと考えています。積極的に教養科目を受講して、素敵な大学生活を送ってください。

農林海洋科学部

藤村　耕平

教養科目の魅力

教養科目の魅力は、己の学部学科に関わらず様々な講義を受講できる点にあると思います。例えば、私は農林海洋科学部海洋資源科学科に所属していますが、「歴史を学ぶ」、「データ活用のためのプログラミング入門」等を受講していました。専門科目では関わることがない他学部の学生との交流や入門ではあるものの専門の先生から学べる機会は非常に貴重であると感じました。特に、私が受講した「データ活用のためのプログラミング入門」は、実際にPythonを用いて簡単なプログラミングを行う演習があり、自分の成長を実感することができました。

その一方で、自分の学科に関連する教養科目を受講することも非常に有意義であったと思いました。進級してより高度な専門科目を受講した際に、教養科目で培った予備知識があることで内容が理解しやすかったからです。自分の学科の先生が担当している教養科目があった場合は受講することも一つの選択肢だと思います。

地域協働学部

久野　優菜

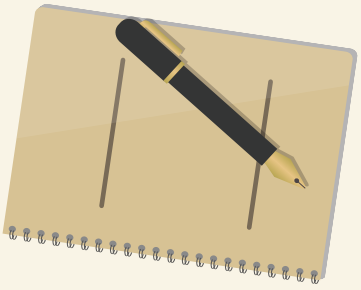
教養科目を学んで感じたこと

教養科目では、自分が所属している学部にとらわれずに幅広い科目を履修することができ、関心の幅を広げることができます。

私は、高校時代に心理学に興味を持っていたため、大学一年の後期に「大学生活と心理学」という科目を履修しました。心理学を学ぶ中で、人には準拠枠というものがあり、人によって言葉の受け取り方は異なるということを知りました。授業を通して私は、自分の準拠枠で話していると相手には伝わらないことがあるため、相手に伝える時にはどのように伝えると良いのかを一度立ち止まって考えることが大切であると感じました。

所属している学部では、グループワークが頻繁に行われているため、この知識は非常に役立つと考えました。グループワークだけでなくこの学びは普段のコミュニケーションにおいても役立つと感じました。

学問は自分の人生に役立つものであり、無駄なものなどないと思います。ですから、自分の興味関心にあった科目を積極的に履修することをおすすめします。



地域協働学部

足立　風薫

「自分の学びをアップデート」

大学の授業では、学部の専門分野の授業に加えて、専門外の授業をいくつか自分で選ぶことができる教養科目というものがある。私がこれまでに履修して印象に残っている教養科目を紹介したいと思う。

一つ目は心理学の授業である。私は人との関わりを大切にしており、心理学の専門的な知識を学びたいと思っていた。授業で学んだ知識から、人との関わり方を変えてみたり、自分の感情をコントロールしたりするなど、自分の専門分野に加えて、日常生活に活かすこともできている。

二つ目はキャリアプランニングの授業である。自分の将来を具体的に考えるきっかけにしたいと思い履修した。授業からは、人生のキャリアの段階や、将来を考えるために何から始めるべきなのかを学ぶことができた。将来のことに不安を持っていたが、積極的に職業を調べたり考えたりするようになった。

私は自分の考え方や知識をアップデートするような感覚で教養科目を受けており、非常に楽しく学びを広げ続けている。これから授業を決めるという人には自分が少しでも興味があると思った授業を取ってみることをお勧めする。積極的にシラバスを調べて新しい分野に飛び込んでみてはどうだろうか。

特集

教養科目

「教養科目」授業の感想、意義、
受講にあたってのアドバイス等

Part 2 教員から

人文社会科学部

日比野　桂

授業の履修はあなた次第

大学に入学して最初に戸惑うことが授業の履修計画ではないでしょうか。高校までは開講時間割が決まっていましたので、選択科目以外は自分が履修する授業を考えることなんてなかったと思います。しかし大学は違います。いくつか縛りはありますが、必修となっている科目以外は自分で履修する科目を選ぶ必要があります。自分が大学で学びたい分野の授業を履修するのも良し、あえて苦手だった分野の授業を履修するのも良し、シラバスを読んで面白そうと思った授業を履修するのも良し。どのような授業をどのように履修するかは自由に決めることができます。

教養科目では事前知識を求められることはありませんので、気軽に色々な分野の授業を履修することだって可能です。興味の赴くままに多くの分野の授業を履修すると幅広い知識を得ることができ、幅広い知識がのちのち様々な視点から柔軟に物事を捉えることにつながっていきます。逆に、特定の分野に特化して履修することだって可能です。自分が大学で学びたかったことに専念して、教養科目の段階からその分野と関連分野の授業ばかりを履修して専門的な知識を蓄えていくこともできます。専門知識を積み重ねることはより深い学びにつながります。どちらを選んでも間違いではありません。当たり前ですが、授業の履修に正解や模範解答などありません。何を学ぶかはあなた次第です。どの授業を選んでもそれぞれの分野の専門家である大学教員から直接学ぶことができます。これは大学に入学した特権ともいえるでしょう。

たくさんの知識を持っていても困ることはありません。色々と知っていることが有利になることも多いです。でも知識を持っているだけでは足りません。最終的には自分が持っている知識を利用できるようになってほしいと思います。ぜひ様々な授業を履修して多くの知識を蓄えて知識を使える、つまり教養のある人になってほしいと思います。

教育学部

山崎　聡

「知っている」ことと「使える」こと

教養科目に限らず、専門科目についても同様ですが、教員は基本、同じタイトルの講義であれば、毎年（通常は年に一回）似たような内容の講義をするわけです（もちろん、講師によっても多少の違いはありますが）。何年か（つまり何回か）同じ内容の講義をするので、内容は頭には入ってはいます。が、それでも自分で講義している最中で新たな発見があったり、完全には理解していなかったことに気付いたりすることもよくあります。その度に思い知らされることは、「知っている」ことと「使える」こととのギャップです。かの宮本武蔵（鎌田茂雄『五輪書』講談社学術文庫、1986年、152頁））によると、単に技術を知っていることでは実践で役に立たず、最低でも千日（千回）繰り返すことで漸く「使えること」（それでも鍛錬の「鍛」レベルで、錬には万回）に昇華できると。つまりは、私の講義についていえば、私は単に知っているだけに過ぎず、その内容を実生活や業務では殆ど活かし切れてはいないということになります。どれほど（自分にとっては）貴重な教訓であれ、情報であれ、それを知っているというレベルでは、それらのポテンシャルに基づいた新たな成果を紡ぎ出すことは不可能ということでしょう。例えば、読書や講演会の機会を通じて、「ああ、良い話だった」という次元で終わっていては余り意味が無いということです。そこで、最近私が念頭に置いているのは、「只管打坐」という禅の観念です。といっても、後半の「打坐」ではなく、「只管」の部分です。含意としては、たとえ単純に見えることであっても、ひたすら（只管）に集中し倦むことなく繰り返すことで、イノベーション（悟り）を引き起こすということだと私なりに理解しています。

もちろん、多くの情報に通じていたり、博識であったり、クイズ王であったりすることを否定するつもりはありません。また、ありとあらゆる分野に上述したことを主張するつもりもありません。ただ、自分が「これだ！」と思う方面に関しては、修行僧のように「只管」繰り返して学ぶこと、「知っている」から「使える」にまで昇華することを学修の基本戦略に据えたいと思う今日この頃です。

理工学部

加藤　治一

教養科目で見つけてほしいもの

大学では卒業に向けて、（普通は）教養科目を指定されただけ履修・単位取得する必要があります。私自身が学生だったころもそうで、当時は特に意義も考えずに受け入れていました。ただ、教養科目は、その科目内容を将来専門的には必要としないだろう人にまでも対象にしています。教える側に回ってみて、そのような教養科目がなぜ大学という場で必要とされているのか、という意義を（ようやく）考え始めています。確たる答えがあるわけではありませんが、そもそも題されている「教養」って、なんだか曖昧な概念ですよね…　インターネット辞書で意味を調べてみると「学問、幅広い知識、精神の修養などを通して得られる創造的活力や心の豊かさ、物事に対する理解力。（後略）」（goo辞書）とでてきます。どうやら知識そのものではなく、それによって得られる人間性のようなものを指すようです。そう思うと「教養」と題する科目が大学で用意されている意味が見えてくる気がします。

大学は、他人から養ってもらい教育を受ける“子ども”から、社会の中で他者に貢献する“大人”の端境期の最中にあたります。自分のことを振り返ると、思春期でゆらぎやすかった人格がゆっくりと固まっていく、そんな時間でした。様々な刺激が人格を形成するきっかけとなったのですが、教養科目で思い出すのは、「死後の世界」について科学的に考えようという授業です。死者は生き返りませんので、死後の世界がどのようなものであるか簡単にはわかりません。それは実験と検証を繰り返すいわゆる科学的な手法にはなじまないように思えるのですが、そこをなんとかして捉えようとする、そんな授業でした。不出来な学生でしたので、その内容はあまり覚えていませんが、しかし一見捉えがたいものをなんとかして理解したいという、教授のその熱意のようなものは感じました。授業の内容自体は今の専門分野には全く直接的には役立っていないのですが、学問に対するその姿勢は、私がそれまで持っていた価値観を揺さぶり、また私の人格を新しい形に作り替えてくれたように感じています。おかげでこうして大学で教えられているのかもしれません。

大学での出会い・学び・生活…はすべてあなたへの刺激となり、あなたの新しい人格を形成する糧となりえます。願わくば「教養」科目からも新しい何かを見つけ、自分なりの「教養」を身につけられるきっかけになりますことを。

医学部
看護学科

佐藤　美樹

「課題探求ゼミナール」

看護学科では幅広い課題に対して幅広い視点で取り組むことができるように、2年毎に4つの講座が輪番制でこの科目を担当しています。私の所属する「臨床看護学講座」では、成人・精神の講座で担当しています。看護学科では、入学後の早い時期に「看護学概論」で看護の基本概念「人間」「環境」「健康」「看護」を学びますが、私たちの講座では、課題探求ゼミナールで更に思考を深めるために、「環境」「人間理解」「プロフェッショナル」「コミュニケーション」を主軸として、グループワークを主体とした授業展開をしており、テーマ決定から文献検討、調査、考察、発表まで行っています。医学や看護を学ぶ上では、その土台となる豊かな人間性とよく言われています。豊かな人間性を育てる要素とは何かについては、それぞれの大学や養成機関の考え方がカリキュラムに組み込まれていますが、医学・看護学以外の人間理解の基となる幅広く様々な科目を学ぶことがそれらの形成につながっていると思っています。ゼミナールでは、入学間もない学生たちが、話し合い協力し合うことは、コロナ世代の学生には困難な要素もありますが、看護の学びへの動機づけとなるだけでなく、慣れない環境の元で、折り合いをつけながら適応していくことが、問題を見つけて解決する能力への一助になっていくのではないかと思っています。また、多くの教員がかかわることで、社会人としてのマナーや大学でのルールや規則についても学ぶ機会となり、4年間看護を学ぶ土台となります。文献や調査方法、PPTの作成など、1年生では難しい要素もありますが、学生が主体的に学ぶことで、学びへの動機付けとなり、その後の大学生活へ生かせる機会と思っています。大学時代は多くの人と触れ合い経験を積み、多様性や社会性を培っていく大事な時期です。学部間の距離的な要素は否めませんが、医学部や看護学科という括りに捉われずに、様々な分野の教養科目に触れ、多くのことを経験し、知や視野を広げていって欲しいと願っています。

農林海洋科学部

莚平　裕次

皆さんは「Ph.D.」という言葉の意味を知っているでしょうか？大学の先生について調べたことがある人は見たことがあるかもしれません。「Ph.D.」はDoctor of Philosophyの略称であり、日本語では「博士号」に相当します。「Ph.D.」をウィキペディアで調べてみると、”*伝統的には、伝統4学部のうち職業教育系の神学・法学・医学を除いた「哲学部（ないし教養部）」のリベラル・アーツ系の学位であった*”とあります。リベラル・アーツとは”*実用的な目的から離れた純粋な教養や一般教養*”などを意味することから、「Ph.D.」とはもともと卓越した教養を身につけた人を指していたようです。

一方、日本語の「博士号」も同様にウィキペディアで調べてみると、”*1887年（明治20年）に公布された「学位令」で、法学博士・医学博士・工学博士・文学博士・理学博士の5種類の博士が設けられ*”たことがはじまりのようです。”現在は「博士（文学）」などと専攻分野をカッコ内に表記し、その数は優に100を超える”ことから、「博士号」とは特定の分野に詳しい人を指していると言えるかもしれません。

私は水産科学の博士号を持っており、魚の繁殖に関連する研究をしています。皆さんはウナギを養殖するとほとんどが雄になってしまうという話を聞いたことがあるでしょうか？ウナギは繊細な生き物で、過密状態で飼育するとストレスを感じて本来雌だった個体が雄に変わってしまいます。程度の差はありますが、このような現象は他の魚でも見られます。以前、植物の研究をされている先生にこの話をしたところ、植物では逆の現象が起きるそうで、生物全般に当てはまる現象だと思っていたことが植物では当てはまらないことをその時初めて知りました。研究をしていると、視野が狭くなりがちですが、「Ph.D.」の由来に恥じないよう、専門以外の教養も身につけていきたいと思った瞬間でした。

地域協働学部

森　明香

①“自分で学ぶ力”を鍛える教養科目

分からないことはWebで検索し、一定水準のレポートはAIで作成可能な時代になりました。これは、膨大なデータの中から必要な情報を拾い出したり、文章の意図を読み解き使いこなしたりすることがこれまで以上に求められる厳しい時代、とも換言できます。

そうした時代だからこそ、一定のまとまった知識を得ていること、テーマを決めてコツコツ学ぶ方法を体得していることは、膨大なネット情報やAIをめぐるリテラシーを鍛える上で、極めて重要です。

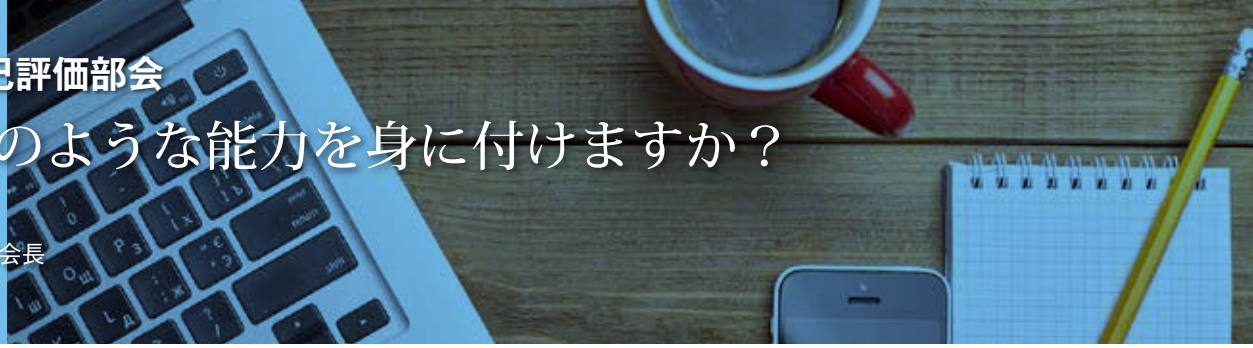
教養科目は、それぞれの分野の入門編であり、一定のまとまった知識を得るまたとない機会です。「専門とは違うから」「社会に出て役立つとは思えないから」と切り捨てるのではなく、気になった様々な分野の授業を受けることを通して、これからを生き抜く力を鍛えてもらえればと思います。

②「川と人の生活誌」

私が担当する「川と人の生活誌」では、川がつくり上げた大地に都市の多くが形成された日本で、人びとが川とどう付き合ってきたのかを、水害や公害、都市化に伴い都市河川が直面した状況や流域のダム開発の歴史を事例ベースで辿りながら、受講生のみなさんと一緒に考えます。川の社会史を辿ることを通じて、地球沸騰化時代の川との人間との共生の在り方を探求する力をつけてもらうことが狙いです。

特に典型的かつ特異な事件として戦後日本公害史に刻まれる「高知パルプ生コン事件」をめぐっては、5週をかけて調べ学習グループワークを行ないます。事件に関連する一つの役柄を演じるために当時の状況を詳しく調べ、異なる立場役の受講生で議論し中間レポートをまとめ上げてもらいます。様々な学部の学生が受講することもあって、レポートの着眼点は被害予防のための協定を機能不全にした地域社会／地方自治体の構造的問題、自然資源に対する価値観の相違、技術／技術者の社会的責任等々、多岐にわたります。

先人たちが未知の状況とどう向き合おうとしてきたのか、そこから得られる現代的教訓は何か。繰り返し投げかけた後に提出される期末レポートの中には、読み応えのあるものも少なくありません。



自己点検・自己評価部会

授業でどのような能力を身に付けますか？

自己点検・自己評価部会長
杉田　郁代

近年、大学教育には「学修者が『何を学び、身に付けることができるのか』を明確にし、学修の成果を学修者が実感できる教育を行っていること」（文部科学省、2018）が求められています。教員が教えた内容ではなく、学修者自らが学んで身に付けたことを社会に対して説明できる学修者本位の教育の実現が、大学に期待されています。

高知大学では、学生の皆さんが在学中に身に付けてほしい「10＋1の能力」を定め、身に付けることができるよう支援しています。「10＋1の能力」は「対人：他者との関係性を築く力」、「対自己：自己をコントロールする力」、「対課題：課題を解決する力」の３つのカテゴリーに分類されます。その分類の下位には10の能力があります。これらの能力を発揮して、周囲の人や社会に働きかける力「統合・働きかけ」で構成されています。

下記のイラストを見たことがあるでしょうか？このイラストには、高知大学で身に付けてほしい「10+1の力」が書かれています。10の能力のうち「対人」は３つの能力で構成されています。表現力（相手にわかりやすく伝えるように話したり、相手のことを考えて文章を書く）、コミュニケーション力（相手の意図をくみとるように聴いたり、自分の意図を分かりやすく伝える）、協働実践力（複数の他者と力を合わせてものごとを進めていく）です。「対自己」は２つの能力で構成されています。自律力（時間を守ることなど自分の行動に責任がもてる）、倫理観（自己の良心や社会的なルールに従って行動できる）です。「対課題」は２つの知識と３つの能力で構成されています。専門分野に関する知識、人類の文化・社会・自然に関する知識、論理的思考力（ものごとを筋道だてて考え論理的に結論を出す）、課題探求力、語学・情報に関するリテラシーです。

ディプロマポリシーの分類	具体的な能力		評価方法
【知識・理解】	対課題（対課題力）	専門分野に関する知識	GPA
		人類の文化・社会・自然に関する知識	
【思考・判断】		論理的思考力	ルーブリックによる学生の自己評価（セルフアセスメント）
		課題探求力	
【技能・表現】		語学・情報に関するリテラシー	
	対人（関係力）	表現力	
		コミュニケーション力	
【関心・意欲・態度】		協働実践力	
	対自己（調整力）	自律力	
		倫理観	
統合・働きかけ	上記の諸能力を内的に統合し、周囲の文化・社会・自然・人間などに外的に働きかけていく能力		パフォーマンス評価

では、「10+1の力」を育む学生生活の場面は、どのような場面でしょうか？

『学びのプロフィール』（高知大学　学び創造センター、2023）を確認すると、授業場面で育まれるのは、論理的思考力です。専門科目や共通教育科目での講義型の授業において身に付いていると捉えている学生さんが多いようです。また、協働実践力は、ゼミなどの少人数でディスカッションなどがある授業が挙げられています。これらのことから、授業場面において、「10+1の力」を身に付けていると言えるでしょう。

高知大学では、学生の皆さんが「10＋1の能力」をどのくらい身に付けているかを自己評価できるように、入学時（1年生）と３年時、卒業時（４年生、６年生）の３回にわたって、GPAで評価するものを除いた８つの能力についてセルフアセスメントシートを用いた評価の機会を設定しています。結果については、e-ポートフォリオの画面で確認することができます。入学時からの自己の成長ついて確認してみましょう。

令和６年度のシラバスより「１０＋1の力」の項目が追加されます。シラバスを確認される際には、授業ごとに表示される能力についても確認しましょう。また、学修の際もどのような能力を身に付けるのかを、意識しながら学びを進めていきましょう。

年度	2024
授業コード	Z2019
授業科目	大学基礎論
英文科目名	Introduction to University Learning
講義副題	
開講責任部署	テスト学部
講義区分	
単位数	2.0
時間割	1学期: 月曜日１時限
講義開講時期	1学期
履修開始年次	1
メディア授業科目	
区分1	
区分2	
履修における注意点	
資格等	

この授業で身につける「10+1の能力」	専門分野に関する知識、論理的思考力、課題探求力、情報に関するリテラシー、コミュニケーション力、自律力、統合・働きかけ

卒業後の進路選択の場面では、高知大学で身に付けた能力について具体的な能力を挙げて説明できるようにしておきましょう。そのためには、e-ポートフォリオでセルフアセスメントの結果を確認することを忘れないでください。

ストーリーとしての履修

共通教育主管　高橋　俊

Story

私の専門は中国文学です。文学といえば、ストーリー（物語）です。歴史小説でも、推理小説でも、純文学でも、文学はストーリーから成り立っています。

近年、世の中の様々な事象を、ストーリーにして考えることの重要性がいわれるようになっています。たとえば、就職活動。エントリーシートや面接では、自らの経験をストーリーにして語れといわれます。「大学1年でサークルに入った／大学2年でバイトを始めた／大学3年で留学した」などという細切れ・箇条書きではなく、「大学1年でサークルに入り、自分には人間関係を構築する力がまだ足りないことに気づき、2年で接客のバイトを始めると、より多様な人と接してみたいという欲求が生まれ、留学することにしました」のようなストーリーに落とし込むことで、面接者が応募者の「人となり」を理解しやすくなるのです。ストーリーを作る能力は、「社会」に出てからも役に立ちます。モノを売るときに、製品のスペックだけを提示するのではなく、「これを買うことで、お客様はこんな生活ができるようになります」というストーリーを語ることで、購買意欲をそそるのです。

さて、みなさんは履修科目をどのように選んでいるでしょうか。学生からよく聞くのは、「まずは好きな「化学」に登録し、次に必修科目の「中国語」を登録し、残りの空いた時間に楽単の「憲法」を入れる」というものです（これはあくまで「喩え」です。実際に憲法が楽単というわけではないので念のため）。しかしこれでは、それぞれの科目で学んだことが「点」で終わってしまいます。いうまでもなく、「化学を学ぶ私」と「中国語を学ぶ私」と「憲法を学ぶ私」の人格が異なるわけではありません。履修した様々な授業で得た知識を「線」としてつなげ、融合していく、すなわちストーリーにすることで、「様々な科目を履修した私」として統合されるのです。履修中でも、履修後でも構いません。自分が履修した科目群が、自分の中でどうつながるか、「化学」と「中国語」と「憲法」が自分のなかでどうつながるのかを（こじつけでもいいので）考えることは、ストーリー作成の練習になりますし、やがては「ストーリーに一貫性をもたせるために履修科目を考える」こともできるようになるでしょう。

「履修科目のストーリーを考える」ことは、メタ認知といえます。メタ認知とは「〝学んでいる自分〟を客観的に眺める」ことであり、「私はなぜ、この科目を学んでいるのか」を考えることにもつながるため、学修において重要なスキルとされています。「様々な科目を学ぶ自分」を、一度じっくりと見つめ直してみてはいかがでしょうか。

編集後記

『パイプライン』も 63 号となりました。共通教育は次（令和6）年度から新体制へと移行します。それに伴い、『パイプライン』の編集内容も変革することになるでしょう。諸行無常、万事は常に変化してゆきます。少し大袈裟かもしれませんが、絶えず成長し続ける皆様の『パイプライン』であることを期待しつつ…。（S）

高知大学共通教育広報誌 PipeLine［パイプライン］No.63

発　行 / 高知大学共通教育実施委員会
編　集 / 共通教育実施委員会広報部会
〒780-8520 高知市曙町2丁目5-1
☎088-844-8168（学務課全学・共通教育係）
発行日 / 2024年3月
制　作 / ㈲西村謄写堂

□広報・記事についてのご意見をお待ちしています。
Mail：gm06@kochi-u.ac.jp